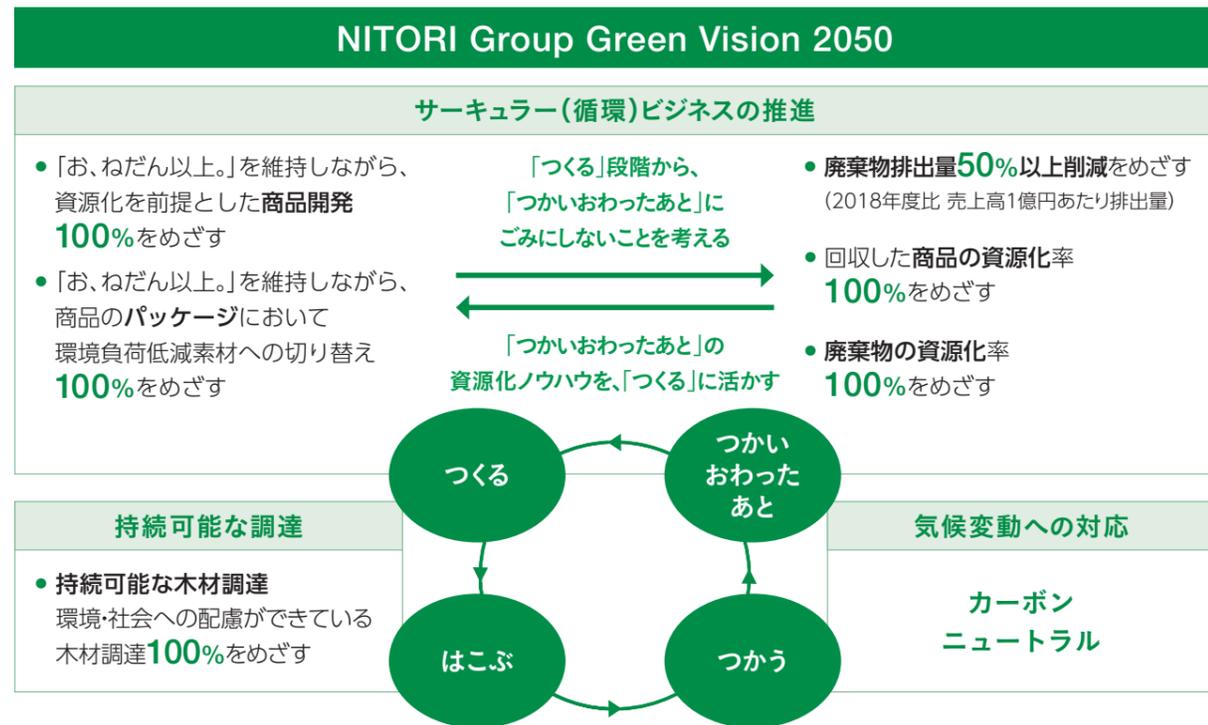


# NITORI Group Green Vision 2050

「NITORI Group Green Vision 2050」は、7つの重要課題（マテリアリティ）の実現のためにグループ独自の循環型ビジネスモデルを最大限活かし、環境への配慮および持続可能な「暮らしの豊かさ」の実現に貢献するための、2050年に向けた目標です。「① サーキュラー（循環）ビジネスの推進」、「② 持続可能な調達」、「③ 気候変動への対応」の3つのテーマに基づき、一丸となって目標達成に向けた取り組みを推進しています。



## NITORI Group Green Vision 2050 目標と実績

テーマ	項目	2030年度目標(中期目標)	2050年度目標(長期目標)	2023年度実績	2024年度実績	注	
サーキュラー（循環）ビジネスの推進	商品の資源化	「お、ねだん以上。」を維持できる範囲で、資源化 <sup>*1</sup> を考慮した商品開発を推進する	「お、ねだん以上。」を維持しながら、資源化を前提とした商品開発 <b>100%</b> をめざす	-	(算定中)	※1 ニトリグループが考える資源化とは、「つくる」段階から「つかいおわたあと」にごみにしないことを考慮し、以下のいずれかを実現することです。・次に役立つ資源につなげる ・再製品化する ・再生原材料の使用 *上記が困難な場合は、熱エネルギーとして活用。	
	パッケージの環境負荷低減素材への切り替え	「お、ねだん以上。」を維持できる範囲で、商品のパッケージにおいて環境負荷低減素材 <sup>*2</sup> への切り替えを推進する	「お、ねだん以上。」を維持しながら、商品のパッケージにおいて環境負荷低減素材への切り替え <b>100%</b> をめざす	-	<b>61.5%</b> (初算定)	パッケージを環境負荷低減素材に切り替えた商品のアイテム数の割合 ※2 再生素材、再生可能素材、生分解素材、化石燃料未使用素材等。	
	廃棄物の削減・資源化	排出前(分別して資源に)	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物排出量 <b>50%</b>以上削減をめざす (2018年度比 売上高1億円あたり排出量)(国内)</li> <li>回収した商品の資源化率 <b>100%</b>をめざす (国内)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物排出量 <b>50%</b>以上削減をめざす (2018年度比 売上高1億円あたり排出量)(グローバル)</li> <li>回収した商品の資源化率 <b>100%</b>をめざす (グローバル)</li> </ul>	<b>34.5%</b>	<b>34.9%</b>	2018年度比の廃棄物排出量の削減量 詳細はこちら(▶P74)
		排出後(埋め立てにまわさず資源化)	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業廃棄物の資源化率 <b>95%</b>以上をめざす (国内)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物の資源化率 <b>100%</b>をめざす (グローバル)</li> </ul>	<b>89.6%</b>	<b>87.5%</b>	廃棄物のうち、埋め立てにまわさず資源化している重量の割合 詳細はこちら(▶P74) ※本開示より、「再利用率」から「資源化率」に表現を変更しています。
持続可能な調達	森林破壊・人権侵害に関与しない原材料の調達	<ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能な木材調達 環境・社会への配慮ができていない木材<sup>*3</sup>調達 <b>100%</b>をめざす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能な木材調達 環境・社会への配慮ができていない木材調達 <b>100%</b>をめざす (継続)</li> </ul>	<b>73.1%</b>	<b>90.6%</b>	評価がレベルA <sup>*3</sup> のサプライヤーの木材調達量の割合 詳細はこちら(▶P45) ※3 FSC <sup>®</sup> ・PEFCなどによる認証木材または認証木材以外で、トレーサビリティに加え、環境・社会に配慮した森林管理の適切性が検証済の木材	
気候変動への対応	温室効果ガスを削減し、気候変動にポジティブに寄与	<ul style="list-style-type: none"> <li>温室効果ガス排出量 <b>50%</b>削減をめざす (2013年度比 売上高1億円あたり排出量)(スコープ1・2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カーボンニュートラル (スコープ1・2)</li> </ul>	<b>32.8%</b>	<b>43.2%</b>	2013年度比のスコープ1・2の温室効果ガス排出量の削減量 詳細はこちら(▶P73)	

## 2024年度における主な取り組み

2024年度の実績については、全体として順調に推移しており、今年度は新たに「パッケージの環境負荷低減素材への切り替え」、「回収した商品の資源化」の目標についても実績を算定いたしました。今後も、単なる数値目標の達成にとどまらず、持続可能な「暮らしの豊かさ」の実現に向けた施策を部署横断で推進し、定量的な進捗管理とともに、課題への柔軟な対応に取り組んでいきます。

### 温室効果ガス排出量削減への取り組み

太陽光発電の設置拠点拡大と、外部から調達する電力の一部に「再生可能エネルギー電力メニュー」を導入したことが寄与し、前年比10.4ptと大きく削減しました。また、サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量であるスコープ3について算定を開始し、開示いたしました。(▶P73)

### 持続可能な木材調達の取り組み

持続可能な木材調達については、令和7年4月に施行された日本の「改正クリーンウッド法」対応と融合して取り組み、サプライヤーとの連携強化とエビデンス書類の収集体制構築により、前年比17.5ptと大きく向上しました。

### 産業廃棄物の資源化率向上への取り組み

廃棄物の資源化率は、分別が困難な使用済みソファの処分が増加したことが影響し、前年比2.1pt低下しています。複数の素材が複雑に使用されているソファは分別が難しいため、今後はより資源化率の高い処理業者との協業や、物流拠点によるソファの分別の取り組みを推進。更に、一気通貫のビジネスモデルの強みを活かし、つくる段階から分別・解体しやすい商品の開発を目指していきます。

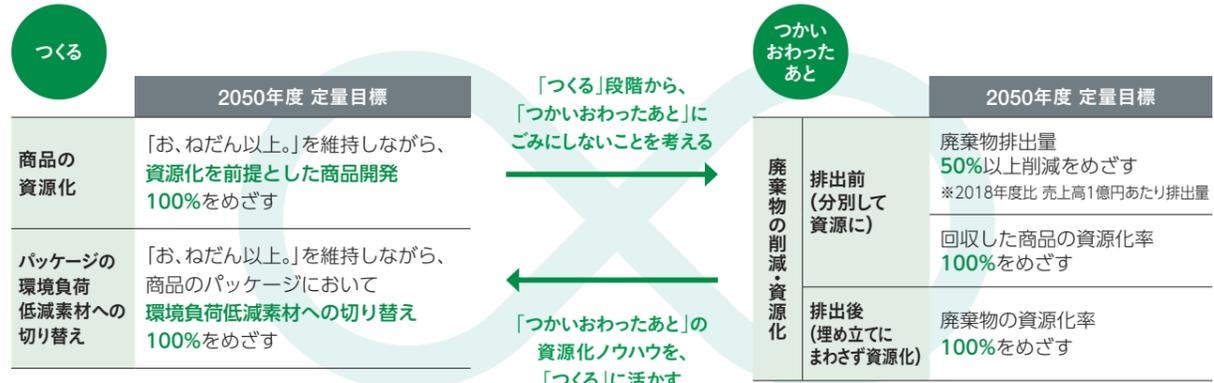
## ニトリグループは、持続可能な「暮らしの豊かさ」の実現を目指します。

限りある資源をつかってビジネスを行っている私たちだからこそ、お客様にとって、ニトリグループでのお買い物環境が環境負荷の低減につながると実感していただくこと、そして、それを誰もが手に取りやすい「お、ねだん以上。」の価格・品質を維持しながら実現することを目指します。

# サーキュラー(循環)ビジネスの推進

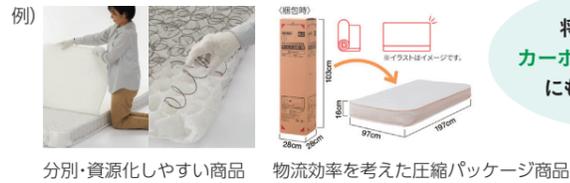
ニトリグループは製造物流IT小売業という独自のビジネスモデルを持ち、「つくる」段階から「つかいおわたあと」までを見据えたサーキュラー(循環)ビジネスを推進しています。「つくる」段階では、将来的な資源化を前提とした商品開発を行い、ごみにしないことを考えたものづくりを目指しています。更に、「つかいおわたあと」の商品の分別・資源化ノウハウを「つくる」段階に活かすことで、一連のつながったビジネスモデルを通じて、循環型社会の実現に向けた取り組みを進めています。

## サーキュラー(循環)ビジネス推進の全体像



### ものづくりに活かす

- 設計段階から分別、資源化を前提とした商品
- 設計段階から物流効率を考えた商品



### ノウハウの蓄積

- どんな構造であれば「分別」できる?
- どんな素材であれば「資源化」できる?



将来的には  
**カーボンニュートラル**  
にも大きく寄与

## 商品の資源化

再資源化を見据えた商品開発(かんたん分別マットレス)や、回収商品の再製品化(再生羽毛布団)をはじめ、リサイクル原材料を使用する等、限りある資源を守る取り組みを推進しています。

### 主な取り組み事例



## パッケージの環境負荷低減素材への切り替え

環境負荷の高いプラスチック系の梱包資材(緩衝材やパッケージ等)について、「プラスチック製の素材を無くす・減らす・変える」という軸で見直しを実施しています。その上で、素材名や材質記号を表示し、ごみではなく資源にまわしやすい状態を目指しています。

2050年度 目標	主な取り組み内容	主な取り組み事例	
「お、ねだん以上。」を維持しながら、商品のパッケージにおいて環境負荷低減素材への切り替え100%をめざす	プラスチック製の素材について、 ①無くす	プラスチック製 個包装 → 紙製のヘッダーのみに変更	
	ポリプロピレン(PP)など、石油由来の素材の削減 パッケージ自体の廃止 過剰高機能パッケージの廃止、簡素化 パッケージサイズや厚みの縮小化、重量の軽量化	②減らす	スリッパのハンガーを小型のロックに変更し、石油由来素材の使用量削減
	プラスチックに変わる新素材の使用(紙・植物由来・布など)	③変える	寝具のプラスチック製パッケージ → 紐+紙製台紙へ切り替え

## 廃棄物の削減・資源化 ~廃棄時の分別の推進~

廃棄段階での分別を推進し、ごみではなく資源にまわすことで、廃棄量や廃棄コストの削減につなげるとともに、限りある資源を有効活用しています。一部の物流拠点では、分別困難なベッドマットレスを自前で細かく解体・分別し、金属などの再生可能なものは資源にまわしています。2024年度は更に拠点を拡大し、今後も資源循環の取り組みを一層強化していきます。



## 廃棄物の削減・資源化 ~商品のリサイクル回収~

お客様のお困りごとに寄り添うと同時に、限りある資源を守るため、販売元にかかわらずリサイクル回収を推進しています。カーテンに続き、2025年6月よりタオルについても回収の常時受付を開始いたしました。



- 参加客数: 約42.2万人
- 回収重量: 約1,683t

※2022年度~2024年度までの累計実績(全店舗)

- 参加客数: 約8万人
- 回収枚数: 約11.5万枚

※2022年度~2024年度までの累計実績(全店舗)

- 参加客数: 約2.4万人
- 回収重量: 約32.5t

※2023年度~2024年度までの累計実績(全店舗)

## 持続可能な調達

環境・社会課題に配慮して調達することを目的とし、サプライチェーン全体で「持続可能な調達」を推進しています。中でも、「持続可能な木材調達」においては、森林破壊や違法伐採、人権侵害を排除したサプライチェーンの構築を目指しており、サプライヤーとともに生物多様性にも配慮したトレーサビリティを行っています。

### 持続可能な木材調達

#### → 木材調達方針 (ニトリグループ調達方針から抜粋)

私たちは、調達方針に基づき、森林破壊や違法伐採、人権侵害を排除したサプライチェーン構築を目指します。

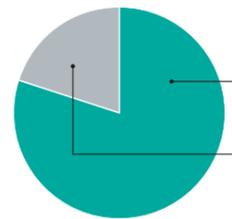
1. 伐採国・地域における法令を遵守します。
2. 原産地までのトレーサビリティが確保された原材料(認証材または認証材以外で環境に配慮された木材と証明されたもの)の調達に努めます。
3. 保護価値の高い森林(HCV<sup>※1</sup>)の毀損に加担しません。
4. 伐採や取引の過程において、先住民の人権侵害を避け、地域住民の慣習的な権利に十分配慮がされているか確認します。
5. 伐採や取引の過程において、原産地の環境影響に配慮しているか確認します。
6. 繊維板(MDF・パーティクルボード等)に関しては、通常廃棄する端材等<sup>※2</sup>を無駄なく有効活用することで環境に配慮します。さらにサイズ統一された繊維板を積極的に利用することで材料ロスを低減し、お求めやすい価格と環境負荷低減の両立を目指しています。

※1 HCV: High Conservation Valueの略。社会的、文化的、環境的に重要な場所を特定し、その生態的、社会的価値を維持しながら持続可能な原材料生産を行うための概念。参照: FSCジャパン/高い保護価値 (HCV) <https://jp.fsc.org/jp-ja/HCVs>  
 ※2 製品や製材にならない枝や木片等 例: 植林木を伐採した際に林地に放置される枝や木片、製造過程において発生する端材等

### 木材調達トレーサビリティ

#### 調査対象

グループの家具プライベートブランド (PB) 商品の仕入れ先のうち、木材調達量全体 (体積) の80%以上を占めているサプライヤーを「重点調査対象」として選定し、調査しています。



ニトリグループ家具プライベートブランド商品  
木材調達サプライヤー

〈トレーサビリティ対象〉  
調達量全体の80%以上のサプライヤー

〈トレーサビリティ対象外〉  
調達量全体の20%以下のサプライヤー  
(重点調査の対象ではないが、国別リスクなどを調査)

#### 調査方法

客観性を確保するため、世界的な環境NGO団体であるWWFジャパンが公開している、「林産物調達チェックリスト」をニトリグループ基準におきかえて活用し、「原産地までのトレーサビリティ」と環境・社会に配慮した「森林管理の適切性」の確認・評価を実施しました。

#### 評価基準と実績

「原産地までのトレーサビリティ」と「森林管理の適切性」について、下記3レベルに分けて評価しています。

レベル	状態	23年度調査結果	24年度調査結果
レベルA	トレーサビリティに加え、環境・社会に配慮ができている木材	73.1%	90.6%
レベルB	トレーサビリティが確保されている木材	21.1%	6.2%
レベルC	トレーサビリティの確保が不十分な木材	5.8%	3.2%

レベルA:  
FSC®、PEFCなどによる  
認証木材または認証木材  
以外で、トレーサビリティ  
に加え、環境・社会に配慮  
した森林管理の適切性が  
検証済の木材

#### 改正クリーンウッド法対応との融合

対象となるサプライヤーのうち残り約20%についても、令和7年4月の改正クリーンウッド法の施行に伴い、合法性の確認および国別リスク評価を継続的に実施しています。

## 気候変動への対応

#### → 方針

気候変動の影響による様々なリスクを認識し、独自のビジネスモデルを活かすことでサプライチェーン全体のあらゆる段階で全体最適を追求し、効率化・最適化を進め、温室効果ガス排出量を削減し、気候変動への影響緩和に貢献したいと考えています。また、事業活動に必要な不可欠なエネルギーについても有限性を認識し、独自のビジネスモデルを活かすことで、サプライチェーン全体におけるエネルギー使用の効率化を通じ、使用量の削減に取り組めます。

#### TCFD提言に基づく開示

重要な経営課題である気候変動への対応を、更に実効性のあるものにするため、TCFD (気候関連財務情報開示タスクフォース) に基づいた開示を行っています。



詳細はこちら

項目	概要
ガバナンス	ニトリグループは、マテリアリティの一つである「環境に配慮した事業推進」の一環として気候変動への対応を進めています。「サステナビリティ経営推進会議」で目標設定・対応策を取りまとめ、「サステナビリティ経営推進委員会」ではグループ全体にかかるサステナビリティ全般の事項について協議。「取締役会」にて進捗状況に応じた助言等を行い、ニトリグループとしての方向性と対応策等を決定します。サステナビリティに関わる取り組みの進捗は年一回以上「取締役会」に報告する運用としています。
リスク管理	ニトリグループは、気候変動関連の規制や事業への影響等のリスク要因を幅広く情報収集・分析を実施しています。留意すべき重要な機会とリスクについては、各事業部の部門責任者が参画する「サステナビリティ経営推進会議」で評価・特定しています。評価・特定されたリスク・機会については、サステナビリティ経営推進体制の下で監督・モニタリングし、「リスク・コンプライアンス委員会」と問題を共有することで、組織の総合的リスク管理を統合しています。
戦略 (リスクと機会の分析)	ニトリグループでは代表とされる「+4℃」シナリオと「+2℃(未満)」シナリオについてサステナビリティ経営推進体制の下で検討いたしました。「+4℃」シナリオにおいては、十分な対策がなされずに酷暑や激甚な暴風雨等が発生することが想定されるため、物理リスクの影響を中心に検討し、「+2℃(未満)」シナリオにおいては、温暖化抑止に向けて技術革新や規制強化が進み、社会が変化することが想定されるため、移行リスクの影響を中心に検討いたしました。
指標と目標	温室効果ガス排出量削減目標として、スコープ1+2の排出量(海外拠点含む)削減を以下のとおり目指します。 <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">2030年度 目標</div> <div style="margin-right: 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">2023年度比で <b>50%削減</b> (売上高1億円あたり排出量)</div> <div style="margin-right: 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">2050年度 目標</div> <div style="margin-right: 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">カーボンニュートラル (排出量実質ゼロ)</div> </div>

#### 施策

上記の目標達成に向け、太陽光発電の設置拠点を拡大したほか、外部から調達する電力の一部に「再生可能エネルギー電力メニュー」を新たに導入いたしました。また、エネルギー効率の高い電気・ガス設備への入替え、熱遮断性の高い建築方法・建築素材の採用等、複数の施策を進めています。これらの温室効果ガス削減につながる設備投資を促進するため、「インターナルカーボンプライシング (ICP: 社内炭素価格)」を2023年度から導入し、将来見込まれるカーボンコスト (炭素税・排出量取引等) を踏まえた投資判断を行っています。2024年度にはサプライチェーン全体の温室効果ガス排出量であるスコープ3の算定を行いました。(▶P73) 特に排出量が多い商品の調達や輸送、商品の使用、廃棄に関するカテゴリについては、今後も注力して削減に向け取り組んでいきます。



## サプライヤーとの真のパートナーシップの構築

ロマン（志）の実現をともに目指し、持続可能な成長をともに築いていく仲間であるサプライヤーに対し、法令遵守のみならず、「真のパートナーシップ」の構築を求めています。こうした考えのもと、環境破壊や人権侵害を排除したサプライチェーンの実現に向けて、2024年1月に「ニトリグループ調達方針」を制定しました。



### 新規サプライヤー候補の採用可否監査

お客様に安全・安心な商品をお届けするため、新規サプライヤー候補の採用可否監査を実施しています。品質保証項目のほか、環境・社会課題への対応項目を含む、最大131項目にわたる現地調査の評価をクリアしたサプライヤーとのみ、契約を結んでいます。  
(▶P76 新規海外サプライヤー監査実施状況)

### ニトリグループ調達方針への誓約

本方針は、グループの従業員だけでなく全てのサプライヤーに理解と遵守を求めています。現在、お取引のある全てのサプライヤーに明示し、ご誓約いただくようお願いしています。本方針に抵触する事態が判明した場合には、サプライヤーの皆様に対し、改善を促すとともに、必要に応じて指導を行い、事態の改善を求めていきます。

## 真のパートナーシップ構築のための取り組み

### サプライヤーへの伝達と対話

2024年度の海外サプライヤー向け経営方針説明会では、現状や今後の課題に加えて、暮らしの豊かさと環境・社会課題の解決につながる商品開発の方向性\*を共有しました。

- \* 圧縮パッケージ商品
- ・ 持続可能な木材調達
- ・ 環境に配慮した梱包材への切り替え 等



### サプライヤー評価

既存サプライヤーの実態把握やリスク特定を目的とし、既存サプライヤーを対象とした評価を年2回実施しています。評価項目は、都度見直しをしており、主に「開発」「品質」「物流・貿易」「企業姿勢」「サステナビリティ（環境課題・人権侵害を含む社会課題への対応項目）」の5つのカテゴリで合計50項目の評価を行っています。2024年度の下期には、420社のサプライヤーに対し評価を実施しました。  
(▶P76 既存海外サプライヤー評価実施状況)

## サプライヤーインタビュー



枕をはじめとした寝具の製造を担う海外サプライヤー。2004年の創業後、2008年より、ニトリグループとの直接取引を開始。研究・開発から生産、販売までを一体化したビジネスモデルを実現し、最先端の技術を取り入れ、持続可能なものづくりを推進している企業です。

### Q ニトリグループとの関わりの中で、会社として成長できたこと

**A** ニトリグループのNWC活動\*1を通じて、生産管理や品質保証体制の面で大きな影響を受けました。リーン生産方式\*2の導入により生産効率の向上と商品の不良率低減を実現。また、お客様目線での事業検討が行えるようになった点も大きいです。お客様に支持される商品を企画・開発し、日本市場だけでなく、欧米市場でも高い評価を受けています。研究・開発、生産、販売までを一体化したビジネスモデルへと発展を遂げ、現在の年商は2018年比で約46倍にまで拡大しました。

\*1 Nitori group Wolrd Circle活動の略。志を同じくするメンバーでサークルを結成し、日頃の業務から問題点を発見して改善・改革に取り組む活動。(▶P51)  
\*2 製造工程におけるムダの排除を目的に、商品および製造工程の全体にわたり、トータルコストの削減を目指す生産方式。

### Q ニトリグループの勉強会や研修を通じて学んだこと

**A** 私たちは毎年（コロナ禍除く）、ニトリグループの勉強会と研修を受け、本部や店舗、物流倉庫等を見学。特に倉庫の物流管理システムに感銘を受け、自社の自動倉庫の建設に取り組みました。また、商品設計時に材料の圧縮性能を考慮し、新材料の使用と技術の改善を通じて、商品梱包サイズの大幅な圧縮に成功。倉庫保管費用と物流コストの節約・削減だけでなく、ニトリグループでの店舗の在庫保管スペース縮小等、互いにWin-Winな運用ができていると思います。  
工場については、2015年から設備導入の研究を継続し、倉庫だけに留まらず、生産工程の自動化を進めています。世界最先端のウレタン発泡生産ラインをはじめ、自動倉庫・自動搬送・自動切断システムの導入により、人時を大幅に削減するとともに、品質の安定にもつながりました。

### Q ものづくりをする上で心がけていること

**A** 商品の安全と品質を最重要視しています。ニトリグループが提唱するように、「品質・安全も企業競争力の一つ」であり、お客様に安心・安全な商品をお届けすることは私たちの企業活動において最も重要な責任です。  
具体的な取り組みとしては、「無針」エリア\*1やニトリグループの専用生産ライン\*2を作り、商品生産の全プロセスで異物混入防止管理を徹底し、商品不良を大幅に低減できました。

\*1 「無針」エリア:商品梱包、検針をした後、保管するための隔離スペース。入室時に、金属などの異物を持っていないかセキュリティ検査を行う。  
\*2 専用生産ライン:梱包、検針ライン、保管倉庫スペースまで、ニトリグループの厳格な品質要求に応えるため、確保した特別生産ライン。

### Q 「NITORI Group Green Vision 2050」の達成に向けた取り組み

**A** 当社は他社にさきがけ、ウレタン発泡において、従来の発泡材の代わりに二酸化炭素を活用し、環境負荷の低減に貢献しました。また、工場の屋上に約30,000㎡の太陽光パネルを設置。発電電力を活用し、温室効果ガス排出量を年間約3,000t-CO<sub>2</sub>以上削減しています。今後も「NITORI Group Green Vision 2050」達成に取り組むニトリグループの歩みとともに、持続可能な発展に貢献してまいります。

# 海外拠点・自社工場における環境・社会課題への取り組みの推進

## 世界で働く従業員

海外の店舗や事業所・自社工場で働く従業員は、14,764名になります（2024年度）。多くの従業員が、グループの海外拠点として商品の安定供給を支えるだけでなく、現地の暮らしの豊かさにも貢献しています。また、その地域に店舗や自社工場等があることで現地の雇用を創出し、地域社会の発展にも貢献しています。

### 海外自社工場における環境課題の取り組み

ニトリファニチャーでは、お客様に愛される商品の開発・製造と環境配慮を両立するため、様々な資源の有効活用に力を入れています。環境・社会課題解決につながる取り組みを従業員自ら提案し、主体となって取り組んでいます。

今後もグローバル展開に向け、グループ一丸となって挑戦を続けていきます。



## 「材料廃棄ゼロ」を目指した取り組み

### 木材

本来なら捨てられてしまう端材を加工し、木材をつなぎ合わせるためのダボとして再活用。



### ウレタン

ウレタンの端材を砕いて接着した再生ウレタンを、マットレスのポケットコイルを支えるパーツとして再活用。



### 不織布

丁寧に洗浄し防錆剤を落とした不織布を溶かし、新しい不織布として再生し活用。

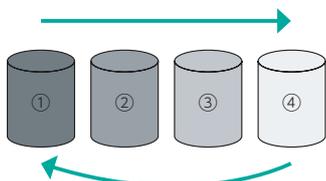


## 水資源の取り組み

### 洗浄に使用する水の再利用

染色前の洗浄工程で発生する洗浄水に対し、アルカリ処理を行い不純物を溶解。その水を再度洗浄工程に利用することで、水の総使用量を削減。

4度の洗浄を経て染色へ



汚れの少ない4番目の洗浄水をアルカリ処理し、1番目の洗浄水へ再利用



### 染色に使用する水の再利用

染色後の水を専用のフィルターに通し、油分や薬剤を取り除き、丁寧にろ過。1日の廃水のうち約60%を再利用することで、水の総使用量を削減。



廃水処理に使用されるろ過設備